

令和元年度米沢市総合教育会議（第2回）議事録

日時：令和2年2月21日（金）

開会 午後 16時30分

閉会 午前 17時48分

場所：教育委員室

1 出席構成員

市長	中川 勝	教育長	大河原 真樹	委員	土屋 宏
委員	佐藤 晃代	委員	我妻 仁	委員	渡邊 美智子

2 出席職員

教育管理部長	渡部 洋己	教育指導部長	今崎 浩規
教育総務課長	佐藤 徹	社会教育課長	梅沢 和男
スポーツ課長	佐藤 幸助	文化課長	佐藤 恵一
学校教育課長	山口 まゆみ	教育総務課長補佐	小田 浩昭
教育総務課総務主査	佐藤 真英	教育総務課主査	伊藤 和香子

3 協議

(1) 米沢市教育等に関する施策の大綱の策定について

(2) その他

4 その他

教育総務課長 令和元年度第2回米沢市総合教育会議を開会いたします。進行を務めます教育総務課の佐藤でございます。よろしく願いいたします。初めに、中川市長が挨拶を申し上げます。

———市長挨拶———

教育総務課長 ありがとうございました。協議に入りますが、協議につきましては、座長を市長をお願いいたします。

市長 それでは、協議に入らせていただきます。まず、(1)の米沢市教育等に関する施策の大綱の策定について事務局より説明をお願いします。

教育管理部長 それでは、今回お示しをさせていただきます教育大綱（案）について説明

させていただきます。資料1をご覧いただきたいと思います。教育大綱の内容といたしましては、将来を見据えた本市の教育のビジョンを示すものでございます。このビジョンの中には本市の教育の課題や社会状況の変化への対応等を踏まえて将来の目指す姿を、その施策の柱を示すものでございます。このために社会状況の変化と本市の課題を5点程まとめております。1つは、人口減少社会でございます。若者が都市部へ流出していることに対して、教育の面でどのような施策が打てるのかというところでございます。また、人生100年時代と言われておりますが、この長寿命社会の中で豊かに生きるためにどのようなことができるのか。本市でも健康長寿日本一を目指して取り組んでおりますので、こういった視点が必要だというところでございます。3点目として、AIをはじめとする技術革新が急速に進んでおります。Society5.0と言われておりますが、未来の社会を見据えた対応のできる力を育む教育のあり方として、どのような方向性を持っていったらいいのかという視点を持っております。また、一方で人間関係や道徳観の希薄化や家庭の教育環境が非常に問題であるということも様々なところで言われておりますので、米沢市としてどのような部分に取り組めるのかというところを教育大綱の中でも議論していただければと思っております。10月の第1回総合教育会議で皆様からいただきましたご意見の他に、教育振興基本計画検討委員会を2回開催しており、その中でもそれぞれの検討委員の皆様方から将来の米沢の教育の姿としてどのようなあり方が良いのかご議論いただき、ご意見をいただいたところであります。それらのご意見を3番として、これからの社会で必要とされるものとして大きく5つのグループでまとめさせていただいております。1つは学力、学びという部分でございます。重要なのは学力、学びであるというご意見が多く、その中身としては、変化する社会に柔軟に対応する力や主体的に学ぶ姿勢、自立した姿、広い視野や高い志を持ってというようなことでございます。また、活きた学力として時代に必要な能力を養うべきだというご意見や、地域や人とのつながりや関わり合う力を育てるべきだというご意見があったところであります。また、幼稚園や保育園等の幼児教育から小学校への連携や、幼児期から大学までの連携といった縦のつながり等についても、本市の学園都市の特性を活かした教育のあり方として必要ではないかというご意見があったところでございます。2点目の生命、道徳におきましては、思いやりの心や多様性の理解等、生命や人権の尊重が重要だというご意見や、社会の道徳観や家庭教育の向上の分野で取組が必要だというご意見があったところであります。3点目の郷土愛や地域につきましては、郷土の理解や愛着を深め、地域の歴史や伝統文化を継承していく体制を構築していくということで世界に羽ばたく人を育てながら、また米沢に戻って来ていただくような取組として郷土愛を小さいうちから醸成していく必

要があるのではないかというご意見がございました。4点目の生涯学習、文化、スポーツにつきましては、夢や生きがいを持ち、積極的に学ぶ意欲や体力、健康の面での取組、生涯学習としてはリカレント教育ということで多彩な学びの場やしなやかな生き方ということでご意見がありました。ここでも家庭や学校、社会とのつながりや大学生との連携といったキーワードでお話いただいたところでもあります。「教育の米沢品質」については、挑戦と創造を行っている米沢ブランド戦略に基づきまして、教育の分野でも米沢品質を目指していくべきだというご意見があったところでもあります。これらのご意見を踏まえ、資料2として理念と基本方針をまとめさせていただいたところでもあります。基本理念は、「ふるさと米沢を心に持ち、学び、輝き、より良い社会づくりに貢献できる人づくり」ということでまとめさせていただきました。この基本理念を実現するための大きな施策の柱となる基本方針につきましては、5本の柱立てにしております。1点目の未来を切り拓き、自立する力を育む教育の推進におきましては、広い視野と高い志を持ち、自らの夢に向かって主体的に行動する子どもの育成や、これからの時代に必要な能力や健やかな体の育成、また、積極的にチャンスを与え、自信を育む教育等をこの中に包含しているところでもあります。2点目の人を思いやる心や公德心の育成では、人権や生命の尊重、多様性の認識と共に人を思いやる心を育む教育と家庭や学校、地域が連携し、公德心を醸成する取組等を含んでおります。3点目の郷土への誇りの醸成と地域の教育力の向上につきましては、歴史や伝統、文化の継承や先人顕彰を通して郷土への誇りや愛着の醸成と共に地域の教育力の向上についてまとめたところでもあります。4点目の生涯学び、活躍できる環境づくりの推進につきましては、生きがいを持ち、生涯にわたり学び続けられる学習の場の充実と文化芸術やスポーツに親しむ機会の充実を図り、心豊かで健康な人づくりという形でまとめております。5点目の「教育の米沢品質」の推進では、「なせばなる」の精神で不可能や困難に挑戦し社会のために貢献する人材や、世界に羽ばたく人材の育成を教育の米沢品質として推進するということでまとめさせていただきました。これらにつきましては、皆様からご意見をいただきまして、さらに修正してまいりたいと考えておりますのでお願いいたします。この後、GIGAスクールにつきまして、教育指導部長からご説明をさせていただきますのでよろしく願いいたします。

教育指導部長 GIGAスクールは、昨年末に国が補正予算を組んで始めたものでございます。資料1の社会状況の変化ということでは、AIをはじめとする急速な技術革新というところ、資料2の基本方針で申しますと、1番の2つ目の、これからの時代に必要な新しい能力というところに関わってくるということで、次のように考えているところでございます。変化の激しい現代社会を生き抜いた

めに必要な力の育成ということで取り組んでいるわけですが、これからの時代は正解がない課題が多くなり、いかに納得解を見出すことができるかということが問われる時代であると捉えているところでございます。そのようなことから子ども達には課題の本質を見つける力、課題への見通しを持つ力、課題解決に向けて主体的に取り組む力、他者と協働して取り組む力、自分の思いや考えを適切に表現する力を身につけていかなければならないと捉えております。先程もありましたように、科学技術の発展により学校の授業のあり方も大きく変化する時代を迎えています。その変化にはICT機器が大きく関わり、授業で使用するデジタル教材の充実をはじめ数年前にはなかなか想像ができなかった離れた場所で双方向による授業を行なう遠隔教育、あるいはAIを活用したドリル学習、学習の個別最適化という言葉で言われておりますけれども、そういったことも可能な状況となってきております。このようなICT機器を活用した新しい教育を施していくことは、先程述べさせていただいた子ども達に付けたい力の育成には必要なことであり、国が示すGIGAスクール構想の実現に向けて、前向きに検討してまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

市長 はい。教育等に関する施策の大綱の策定についてとGIGAスクールについて説明をいただきました。ご意見、ご質問等お願いします。

土屋委員 市長がいろいろな場面でSDGs、いわゆる持続可能な開発目標の話をしていましたので、私なりに勉強してみました。その中で、本市の教育の特徴になるということが自分なりに理解できました。先日の中学生議会もその一つだと思うのですが、SDGsの17の目標を一つひとつ見ると、自分たちのまちづくりということ、まちの良さや、自分は将来もこのまちで生きていきたい、そのために自分はどうしていくのだというような視点で子ども達を育てていかなければならないというのが市長の思いなのではないかと思いました。ぜひ持続可能な社会づくりの担い手を育む教育という視点を大綱に入れていただきたいと考えたところでした。

市長 SDGsに米沢が該当しないのは1項目くらいしかないと思っています。海がないですからね。これから子どもが少子化の中でグローバル化や国際化、情報化が進む社会をどうやって生き抜いていくかということを考えると、本当に大変な時代になってくると思っています。これから取り組んでいかななくてはいけない17項目のうち、米沢の子どもを育てる意味で何を体系化していくかということは、人間として生きていく上での根本的なものだと思います。国連が目標として定めた17項目の最初に出てくるのが貧困、飢餓、そして保健、4番目に教育となっています。貧困社会をどうするかということが問われていますけれど、世界の中での日本の貧困はまだ良いほうで、飢餓についても、

いろいろ貧困はあるにしても飢餓という状況はまずないだろうと思っています。世界の中で比較すると日本はまだ恵まれている国だと思います。逆にそういった部分では、この項目の中にはイノベーションとか産業雇用といった項目も入っていますので、そういった関わりをどうこれからの子ども達の教育に結び付けていくかということになると思います。学校を卒業したらしっかりと働いていくという産業教育のようなことはチャレンジウィークで取り組まれています。そういったことを取り入れることによって学力、学びと、後についてくる生き抜いていく力が身についていくということにもなってくると思います。持続可能な開発目標のことに同時に子ども達の教育目標について、今お話したようなことをどのように整合性を取っていくか考えていくことによって、他の教育大綱と違う米沢らしい部分が出てくるのではないかと考えています。昨年の市政130周年記念フォーラムの中でPHP研究所の所長さんが先駆けてSDGsに取り組んだ政治家は上杉鷹山公だと言われておりました。先人の良い手本が米沢にあるわけですから、そういった教育のあり方を教育大綱に入れていってもいいと思います。委員の皆様、どうぞお話しください。

我妻委員 基本方針1の、これからの時代に必要な新しい能力というところは、もう少し具体的な言葉を入れてほしいと思います。例えば、国際化へ対応する、グローバルに対応する、技術革新に対応するというを入れていただきたいと思います。その中には、前にもお話した多言語能力、外国語能力も含まれます。平成の初め頃に携帯電話が普及し始めて、たった30年でこんな時代になったわけです。これから10年、20年後を考えれば2か国語ぐらい喋れなくてどうやって世界を生きていくんだぐらいの流れで進んでいくのではないかと考えています。不易流行でいうと、5番目の「教育の米沢品質」についてですが、この内容は基本理念に持ってきたくらいのものだと思います。鷹山公の「なせばなる」、「興譲の精神」この2つでしょうか。私の経験ですが、学生として東京に住んでいた時に米沢生まれだと言うと、上杉鷹山の地ですばらしいところで生まれ育ったんだなと評価してくださるんです。米沢を出て、米沢で育って教育を受けてよかったという誇らしさのようなものを感じました。そういうことからすると、世界に羽ばたいていく方、米沢に定着してがんばる方、いろいろだと思いますが、どこに行っても米沢を思い出す気持ち、単純な言葉でいうと愛でしょうか。そういう気持ちを持ってくれる子どもを育てたいと思いますので「なせばなる」の精神と鷹山公の教えの精神文化をぜひ盛り込んでいただきたいです。それと地域の教育力も必要だと思いますが、貧困の中で格差が広がっている部分もあり、その経済的な格差が教育の格差につながったり、それがまた連鎖していくということがデータの的にも表れていますので、そこを食い止めていくのも教育の力であり、かつ教育がどこまで家庭教育の中に入っ

ていけるかということだと思います。難しい問題はあると思いますが、家庭の教育力をいかに高めていくかということも大綱の中に入れていただきたいと思います。

渡邊委員 私も、この5番の「教育の米沢品質」の推進のところが米沢らしさを持った教育ということで力を入れていきたいところだと思います。ここに検討委員会でも話題になりました学ぶことだけではなく、学んだことを発信できる人材づくりという言葉を加えたらいいのではないかと思います。学んだことを活かすことができるということは発信できる力の一つだと思います。自信がなければ発信はできませんし、基本方針1のチャンスを与え自信を育む教育を推進するということは、最終的には発信力を持って自分の考えをまとめて、協調性を高めていく。また、その相手に対しての理解を求めて、相手の立場になって物を考えて、また発信していくということはコミュニケーション能力が高まるということにつながっていくのではないかと思います。ここに米沢の良さを学んだ上で多方面に発信できる人材の育成ということを加えていただけたらと思います。それによって、またコミュニケーション能力が付き、また発信することによって米沢に対しての情報を修得できるチャンスにもなると思いました。それから、基本理念について質問ですが、ふるさと米沢を心に持ち、学び、輝きとありますが、輝きというのは抽象的に感じるのですが、こういったイメージで言葉が使われているのか教えていただきたいと思います。

教育管理部長 輝きにつきましては、自信を持って自分のカラーをきちっと出せるということで、多様性の中でそれぞれの力が発揮できるというようなイメージを持っております。

渡邊委員 わかりました。ありがとうございます。

佐藤委員 学力、学びに関して、豊かな心の育成というところで読書という言葉がなかったのですが、いろいろな全国テストやNRT、応用力の読み取りには読書は大事なことだというお話が出ていたと思いますので、基本方針1の(1)に読書に取り組み豊かな心というような形で読書という言葉を入れていただければ良いと思いました。(2)生命道徳に関しては、人を思いやる心を育むという子とも非常に大事ですが、まず、自分自身の命や自分のことを大事に思える自己肯定感を持つことが大事だと思います。自分に自信を持つことができ、厳しい社会を生き抜く力に結び付いていくのではないかと思いますので、自分自身を大切に自己肯定感を持てる人ということも含めて考えていただけたらと思います。また、家庭教育は命や学習に対する意欲、読書、道徳心とすべてに関わってくる大事なところだと思いますので、前の会議でもお話ししましたが、お子様が小学校に上がる前のご両親や保護者の方に対する教育も重要視していただきたいと思います。学力、学びに関することではGIGAスクールというお

話がありましたけれども、教える側の先生方は、英語だ、プログラミングだ、道徳だ、GIGAスクールだと、今まで以上にとっても大変になると思います。先生方の人材育成の研修会や補助していただける方々の協力を取り入れながら行っていくことを考えていただくと、先生方にも子ども達にとっても良いと思いました。生涯学び、活躍できる環境づくりについてですが、これからは生涯学習で学んだ方が、その経験や知識、技能を逆にお教えするような活動の場をつくるということだと思います。教えてくださる方々の活躍の機会を考えていただきたいと思います。また、生涯学習の先生のみならず、子ども達に米沢のことを教えていただければ子ども達の郷土愛につながりますし、年代を超えたコミュニケーションづくりにもなると思います。「教育の米沢品質」ですが、まず、自分自身が社会を生き抜いて、そこから貢献するということだと思いますので、社会を生き抜き、社会のために貢献する人材というようにしてはいかがでしょうか。

市長 はい。ありがとうございます。今いただいたご意見について、教育長いかがですか。

教育長 はい。皆様のご意見を総合して、基本理念を次のように直したらどうでしょうか。「なせばなるの精神で教育の米沢品質を推進し、持続可能な社会づくりに貢献できる人づくり」皆様からお聞きしたそれぞれの項目をここに付け足させていただいて仕上げさせていただくということでしょうか。

市長 教育長から各委員のお話をまとめていただき、基本理念に組み込んでいただきました。委員の皆様、どうぞご自由にご意見等お願いします。

我妻委員 基本方針1に自らの夢に向かって主体的に行動する子どもの育成と積極的にチャンスを与え、自信を育む教育を推進するとありますが、市民の方や保護者の方に今一つ伝わらないように思います。主体的にとか、自信を育む教育の意味はわかりますが、努力とか何か、もう少し言葉を磨いていただきたいと思いました。また、積極的にチャンスを与えるというのはどうでしょう。それから、基本方針2の公德心という言葉ですが、個人的には規範意識や公共心のほうが良いのではないかと思います。それと3番の市民の貴重な知識や技能を發揮できる場と人の輪をつくり、地域の教育力の向上を図るとありますが、これは生涯学習の最終的な到達点だろうと思います。そういう意味では4番の誰もが生きがいを持ち、長寿社会をしなやかに生きられるよう、生涯にわたり学び続けられる学習の場の充実ということはコミセンを中心にした生涯学習につながり、その最終的な目標は一人ひとりが輝いていくと同時に、そこで蓄えたものを地域の中に還元していくということだと思いますので、この辺は一緒にしてもいいのではないかと思います。

教育長 公德心について、最初は規範意識だったのですが、市民憲章の中に公德心とい

う言葉がありましたので、公德心のほうがいいのではないかということで変えた経緯がございました。

市長 基本理念は教育長からお話があった通り、今後どうまとめるかということになりますが、基本方針の一つひとつの項目に米沢の教育がどう入ってくるのかということだと思います。例えば、先程の輝きという言葉は子ども達の成長のためにどう自分を磨いていくか、そのことによって輝きが出てくるのだと思います。学んだことを発信し、活かすことができるという良い手本は徹底的に実学を鷹山公に教えた細井平洲先生の「学思行相須って良となす」この言葉に尽きると思います。学んだことをよく考えて行動に移す、行動するということは発信するわけですから、そういったことをして初めて学んだことになるんですよ。ということはどう教育の中で出していけるかということになると思います。米沢でも東海市の学思行賞のようなものをつくって、教育そのものが結果として子どもを磨き上げていくようになっていかないといけないと思います。米沢の教育は英語もパソコン対応もやっていきますよというようなことが感じられるような大綱だといいたんですがね。

教育管理部長 大綱については、基本理念として大きく目指す姿と、その実現に向けての大きな柱立てなので、この中に細かいところまで盛り込むのは難しいのですが、これを基につくる振興計画は、そういった事業を位置付けていくわけですので、その部分を含んできちっと伝えていかないと計画として成り立たないというところがありますので、皆様からいただいた様々な思いや視点を取り入れて計画をつくっていく必要があると思っています。理念については、いろいろな言葉を取捨選択して凝縮してしまうので、いろいろなことが含まれているのですが、なかなか見えにくいということがありますので補足をしながら、皆さんに伝わるようにつくっていかねばいけないと思っていますところでは。

市長 昨日、ブランド戦略のトークセッションがありました。米沢ブランドは、「なせばなる」の精神を基に「挑戦と創造」とありますけれど、アワードをもらった事業所の方が、もう1つの日本ということを話していました。ライシャワー駐日アメリカ大使が山形を訪れた時に「山の向こうのもう一つの日本」と言っていたわけですが、山形県も今年度の予算で意識的に精神文化ということを打ち出しているんです。これは出羽三山を中心にイメージしていると思いますが、米沢にはもっと良いものがあると思っています。私が本当に米沢らしいなと思っているのは草木塔です。木や草にも神が宿るという精神文化です。鷹山公の「なせばなる」と草木塔はすばらしい米沢の宝だと思っています。それをどう活用していくか、教えていくかということをお話しているんですが、先程も話しましたが、PHP研究所の所長さんが鷹山公は先駆けてSDGsに取り組んだ政治家だったと言っておられましたけれど、250年経っても米沢にそ

れが生きているわけです。同時にその精神的なものが少し日本人に希薄になってきている部分と、東京と米沢は違うというところの教育をしっかりとやっていくことが持続可能なSDGsにつながっていくのではないかと思います。

土屋委員 昨日、ある会社の社長さんとお話したのですが、東京で学んでいるお子さんが米沢に帰って来て教員をしたいと言っているんだそうです。なんでという話になりました。家族や家庭というのはちゃんと家があって、そこにみんなで住んでいることが、その娘さんからすると家なのだそうです。今はアパートに住んでいるわけですが、それは家とはいわないと言うんです。米沢で育ってきた中で家とはそういうものだと思ったので、米沢に帰って来て教員をしたいということなんだそうです。その話を聞いてとてもうれしくなり、ぜひ頑張るといふ話をしました。そういう思いの持てる教育が大事だと思います。

市長 米沢には教育環境や人格形成に良いものがあるんだと思います。これからの子ども達の教育の中でこれをどう発信していったらいいのかということですね。

我妻委員 先日、東京に行った時に一汁一菜を知っている方がいらっしゃって、大したものなんだなと思いました。我々が小さい頃から家庭の中で教えられてきたもので、持続可能な社会のために生き続けてほしいと思うのは、質素儉約という鷹山公の精神です。ただ質素儉約は時代と共に変わり、昔の質素と今の質素は違うので、今の時代に合った質素儉約はまさしくこれから必要だと思います。米沢の精神文化として残していかなければいけないと思います。

市長 大事なことですね。けちということではないんですね。時代が求められる教育はしっかり子ども達に教えていかなければならないけれども、そのベースになるものが米沢の教育だろうなと思います。GIGAスクールについてですが、子どもにパソコンを1台ずつ預けて何を教えるかということは決まっていますか。

教育指導部長 いろいろな教材が開発されています。その子の学習の履歴も残って、どういう問題が苦手で、どういう学習をしなければならないかなども考えてくれて、その子に応じた問題をさせるというようなことも研究されています。

市長 そのカリキュラムはどこでつくるのか、先生がつくるのですか。

教育指導部長 それは買う教材になります。

市長 企業も農業分野も全部そういうスマートシティ、スマート農業というところに入って来ているんですね。社会全体としての連携もしていかなければいけないし、子ども達をどうGIGAスクールの中で成長させていくか、農業分野でも産業分野でも一つのソフト的なものが出てくるかもしれない。だからAIやICT、IoTも含めて、どう社会全体を構築していくか、子ども達だけにそういう部分をやれと言ってみても、どこまで効果が出てくるのか。社会全体でやっていかないと非常に難しいところがあるだろうと思っています。

我妻委員 地元の企業など、民間の力を活用しながら先端の教育環境を整えて、かつそこで伴ってほしいのは学力が上がったという結果です。最終的には確かな学力を身に付けて、先端の教育環境が整っている、高い学力を持った地域だ、精神文化がすばらしい、自然もいいとなると絶対に人は外から来ると思います。教育の力で持続可能な米沢ができるのではないかと思います。

市長 GIGAスクールをどういう形で教えていくか。おもしろければ、子どもは絶対に夢中になると思います。おもしろければ学力にもつながっていく。

我妻委員 学習ソフトも無料で提供してくれる時代ですから、基盤さえしっかりできれば、ソフトにコストをかけないでやっていけるだろうと思います。

教育管理部長 今までの教育文化計画では、「がってしない子ども」というキーワードを出してきたわけですが、今回はその代わりに主体的なとか、そういった意味合いは載せてはいるものの、米沢の一つの子どもの姿として、「がってしない子ども」というのは割と定着しているというところがあるわけですが、その辺について、皆さんからご意見をいただければと思います。

市長 いかがでしょうか。

我妻委員 個人的な感想ですが、自分が小さい頃、「がってしない」ってよく使われていたのですが、プラスの評価と、ある反面そんぴんだな、というような、どちらかというとなりのイメージがあって、自分としては、言われて褒められたなという感じを持った記憶はありません。

佐藤委員 私も以前に「がってしない女性」と言われたことがあります。褒め言葉ではなく、女だけど男らしい人のように言われていると感じたことがあります。教育委員会で、「がってしない」という言葉を聞いて、そういうマイナスの意味合いだけでなく、褒め言葉の意味もあるんだということに気が付きましたが、最初は違和感がありました。

市長 今は、「がってしない」という言葉そのものがわからなくなっているところがあるんですね。いい言葉だと思いますけどね。事務局から何かありますか。

教育管理部長 今日は皆様方から、このたたき台を基にご意見をいただきましたので、これを基に再度まとめさせていただいて、次回ご提案させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

市長 それぞれ委員の皆さんからご意見を出していただいて、米沢市の教育のあり方が見えてきたように思います。これから国が求めている県の教育方針は当たり前のことであって、これから求められるものというのはやっていかななくてはならないわけですから。委員の皆様よろしいでしょうか。では、協議はこれで終了させていただきます。

教育総務課長 長時間に渡りましてご協議いただきましてありがとうございます。これを持ちまして総合教育会議を閉じさせていただきます。